

平成25年度10月定例記者会見 会見録

日時 平成25年10月22日（火）午後2時00分～2時20分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、相模総合補給廠北側部分の返還についてお話させていただきます。

10月17日、防衛省南関東防衛局から相模総合補給廠北側部分の返還につきまして、日米合同委員会において合意されたとの報告がございました。この合意によりまして、長年の懸案事項でございました基地の北側の道路整備が一步前進することとなります。道路が整備されますと、緊急車両の通行が可能になるほか、地域の皆様の利便性が高まることとなりますので、一日も早く市民利用が図られるよう早期整備に取り組むたいと考えております。

次に、自治会加入促進に係る重点プロジェクトについてでございます。自治会加入促進に関しましては、8月28日に市自治会連合会と市の間で連携基本協定を締結させていただいたところでございます。その取り組みのひとつといたしまして、10月17日に自治会加入推進協議会を発足いたしました。この協議会では、市自治会連合会のほか全日本不動産協会や市立小中学校PTA連絡協議会、相模原・町田大学地域コンソーシアムなど様々な立場の民間団体に参画いただいております。自治会加入促進に向け具体的な取り組みを検討していくこととしたものでございます。今回の会議では、自治会への市民のご理解を深めるとともに、加入促進をより一層進めるため、11月15日から12月14日までの1カ月間を自治会加入促進月間と定めることといたしました。自治会加入促進月間中の具体的な取り組みとしては、橋本、相模原、相模大野の3つの駅前で街頭キャンペーンを実施したいと考えております。また、期間中、市のすべての窓口にミニのぼり旗を掲出するほか、チラシの配布、ポスターの掲示などの取り組みも実施してまいりたいと考えております。そのほか、本市は賃貸マンションやアパートが多いことから、関連団体である神奈川県宅地建物取引業協会、全日本不動産協会と市自治会連合会、さらには、本市との間で自治会加入促進に関する協定の締結について検討してまいります。街頭キャンペーンや協定締結の日程につきましては、決まり次第お知らせいたします。

次にホームタウンチームであるスリーフットボールチームについてでございます。はじめに、J3への入会申請をしているSC相模原についてでございますが、先日、Jリーグの大東チェアマンが来庁され、J3入会に関してお話しをしたところでございます。11月19日に開催される理事会で審議されると伺っておりますので、ぜひ、SC相模原のJ3入会を決定していただきたいと思っております。なお、SC相模原につきましては、現在、JFLで3位でございます。残り5戦をしっかりと戦っていただきまして好成績を残していただきたいと思っております。次に、国内最高

峰のXリーグに所属するアメリカンフットボールのノジマ相模原ライズでございますが、20日のファーストステージの最終戦では、昨シーズンの覇者でございますオービックシーガルズに惜敗いたしました。グループ2位の成績でセカンドステージへ通過を果たしました。また、ラグビーの三菱重工業ダイナボアーズ相模原は、これまで5戦全勝で2部リーグのトップを走っております。7年ぶりのトップリーグへの振り返りが期待されるところでございます。3チームとも本市のホームタウンチームとして、相模原の誇りを背負って戦っております。市民の皆様におかれましては、ぜひ熱い応援をお願いいたします。

最後になりますが、26日、27日に、潤水都市さがみはらフェスタが開催されます。恒例の「さがみはらあ麺グランプリ」をはじめ、「圏央道キャラクター祭り」、ホームタウンチームによるスポーツ体験など様々な催しを開催する予定でございます。しかし、今週末に台風27号が接近するという予報も出ておりますので、その影響も心配しております。今後の台風の状況を注視して、しっかりとした対応をまいりたいと思っております。

私からは以上でございます。

※ 潤水都市さがみはらフェスタは、台風27号の影響により中止となりました。

(記者)

スポーツチームが表敬訪問などで来庁された際に、市長から相模総合補給廠の一部返還予定地と共同使用区域にグラウンドを整備して市民が観戦できるようにしたいとお話されておりました。利用方法など具体的に決定しているのでしょうか。

(市長)

相模総合補給廠の共同使用区域については、日米合同委員会において合意された約35ヘクタールのうち、約10ヘクタールを相模原市が要望しているスポーツ・レクリエーションゾーンとして整備する方向で決まっております。

現在、国が一部返還予定地及び共同使用区域と米軍基地との境界柵などの条件工事を行っております。国の条件工事が来年春に終わる予定と伺っており、来年度以降、市で共同使用区域内のスポーツ・レクリエーションゾーンの境界柵等の整備をまいりたいと考えております。並行してスポーツ・レクリエーションゾーンの具体的な利用方法を検討しておりますので、できる限り早く市民の皆様にご利用いただけるよう進めてまいりたいと考えております。

(記者)

返還が合意されている鉄道・道路用地ですが、先行して緊急車両だけでも通行できないかという声があると聞いておりますが、市長はどのように考えられますか。

(市長)

緊急車両の通行など、町田方面との利便性から暫定的な利用ができないかというご要望もございます。返還には、安全対策などのために国や市が行う条件工事が必

須でありますので、これらに取り組みながら、並行して暫定的な利用についても国に対し要望したいと思います。

(記者)

J R横浜線に隣接した相模総合補給廠南側部分を道路用地として返還申請することですが、いつ頃申請する予定ですか。

(市長)

相模総合補給廠の南側、J R横浜線に隣接する部分につきましては、いわゆる返還4事案の一つとして国が返還に向けた協議を約束したものであります。一部返還予定地の土地利用計画と合わせながら現在、具体的な道路のあり方を検討しておりますので、今後、米軍及び国と調整してまいりたいと思います。一部返還予定地、共同使用区域と一体的に整備できるよう調整したいと思います。

(記者)

10月18日にリニア中央新幹線の環境影響評価準備書の説明会が終わりました。車両基地の設置が予定される鳥屋地域の方にとっては、工事車両や住宅移転の問題など、切実なことと思います。J Rは説明会で道路管理者の県や市と話し合ってくださいと話しております。市としてはどのように考えておりますか。

(市長)

車両基地が設置されるエリアは概略を示されているものの明確なエリアは示されていません。説明会では、地域の方からお話のようなご意見もあると伺っております。歴史のある地域でもあり、地域が分断されることなく地域コミュニティが守られ、さらに車両基地があることで地域振興が図られる計画にしなければいけないと思っております。また、道路のあり方などについては、地域の方の意向が反映されますとともに、地域の発展に繋がるよう、市といたしましても調整したいと思っております。

(記者)

相原中学校柔道部は強豪校として知られ、五輪選手も輩出しています。報道にもありますが、このような事態が起こっていることについて、市長はどのように思いますか。

(市長)

中学生の部活動の一環だと思っておりますが、体罰の問題やいじめの問題など、様々なことが社会問題となっており、市といたしましても再認識しなければなりません。中学校の教育的な視点で考えれば適切な指導をしなければならなかったと思えます。教育委員会と関係者とで十分に協議していただきたいと考えております。

(記者)

相原中学校では吉田道場での練習に、2010年から顧問が引率していたという話があります。校長は、学校の敷地外で活動する場合は部活動ではないという認識を持っている一方、顧問が道場に引率し、柔道の練習をしていることについて、市長はどのようにお考えですか。

(市長)

部活動と自主的に道場で練習するということを分けしても良いかもしれませんが、今回は道場関係者に部活動の外部指導者を委嘱しておりますので、部活動の一部という側面もあると思います。単に、学校内で行うことが部活動、それ以外は自主的な活動という分けは難しいと思います。もう少し学校外の活動にも注意を払い、関係者や生徒から意見があった場合には、生徒により添った指導が必要だったと思います。

(記者)

学校から帰って練習しているので部活動ではないという学校側と教育委員会の認識について、市長は違和感があるということでしょうか。

(市長)

今回の場合は、学校での活動とそれ以外の活動を明確に区別することは、難しいのではないかと考えています。

(記者)

国家戦略特区について、相模原市として何らかの提案をするという予定はありますか。

(市長)

現在、国において地方分権改革の問題や経済再生など、様々な取り組みが考えられております。しかし、これらのことを国だけで行うのは不可能であり、実行の際には地方自治体に加わっていくこととなります。相模原市としても、協力しなければならないことについては協力したいと思いますし、地方自治体にそぐわないことについては是正を求めていきたいと考えております。必要性があれば国に実情を訴え、本市の状況を知っていただくような活動もしなければならないと思います。アベノミクスなどの経済政策については、市といたしましても協力していくほか、さがみロボット産業特区などの特区制度を利用して、相模原市内の経済の底上げをしたいと思います。このことは自主財源を増やすことにもつながりますし、市民生活の安定につながることとなります。国と協調して取り組まなければならないと思っております。

(記者)

市議会が議会の会期通年化と一問一答制を導入したいとのことですが、市長はどのように考えますか。

(市長)

議会からは正式なお話をいただいておりませんが、議会の運営方法については議会で決めるものと考えております。今後、そのようなお話があれば、私としては手続きを進めてまいりたいと思います。

(記者)

専決処分の取り扱いは、どのように考えますか。

(市長)

専決処分の中には、議会が閉会中などで緊急の場合に行うものがあります。通年議会となれば、議会の判断により必要な時期に議会が開会され、審議されることと思いますので、非常に素晴らしいことだと思えます。

以 上